

千光寺の春

下陳地区にある龍池山千光寺。この季節、参道にはまばゆいばかりの桜のアーチがかかります。

千光寺の建立は室町時代とされており、本堂内にはカヤの木で造られた像高約2・7mの「木造十一面千手観音像」が本尊として安置されています。県下最大級の巨像といわれており、町の貴重な文化財の一つです。観音像は同寺の建立時期より早い平安〜鎌倉時代の作

とされています。平安時代末頃、この地域に創建された「石川の寺」から移されたと考えられています。

千手観音像は熊本地震で被災しましたが、地元の人たちや住友財団の尽力により復元されました。管理関係者の小路洋一さんは、「多くの方々のご尽力で、観音様が見事によみがえりました」とうれしそうに話してくれました。

千光寺参道近く、自宅の庭先で色とりどりの花々を育て楽しむ土田富美子さんに会いました。土田さんは昭和13年の生まれ。昭和24

(1949)年に起きた、八代市日奈久沖での津森小修学旅行生の遊覧船転覆事故を目の当たりにした一人です。事故では6年生22人と教師、校医の2人が亡くなりました。「5年生だった私たちは、6年生の乗船後に遊覧船に乗る予定でした。大好きだった人たちが亡くなりとても悲しかったあの事故のことは、今でもはつきりと覚えています。だけん、亡くなった方々の分まで長生きせんとね」と話してくれました。



千光寺の本堂に安置されている木造十一面千手観音像



地域の人たちの尽力で立派な門も復旧しました

千光寺の参道近くで出会った土田さん



土田さんの庭先のビニールハウスの中では、セラニウムや珍しい植物が育っています

地域の神聖な場所

北向地区の消防団詰所から南に進んだ山道の右手に、古津森宮があります。ここは、寺中にある津森神宮の元宮と伝われます。津森神宮はかつて、勅使(天皇の使い)が訪れた県内10社のうちの1社。その元宮となるここは、町においても貴重な場所です。

階段を上ると、頂上に町指定文化財の石造物がたたずんでいます。「鎌倉後期のもので、肥後国時代では最大級だったと伝えられます。板碑は熊本地震で被災しましたが、北



古津森宮がある場所から眺めた風景